

和歌山大学システム工学部 学生員 ○静川 仁巳
正会員 山本 祐吾

1. はじめに

農林水産業や製造業が衰退傾向にある和歌山県では、「和歌山県観光振興実施行動計画」が策定され、観光を地域経済のリーディング産業に育成する取り組みが推進されている。和歌山県は県土の77%を森林が占める、非常に自然の多い地域であり、その豊かな自然環境がもたらす多様な生態系サービスは、景色や風物、郷土料理、温泉、海水浴場など様々な有形・無形の観光資源として利活用されている。そのため、観光資源として直接・間接的に活用される自然環境の保全は、和歌山県が観光業を基盤産業として持続的に発展させていくために欠かせない。そこで本研究は、和歌山県の観光がどのような地域資源を活用しているか、それらがどのような自然環境あるいは生態系サービス (ecosystem services) と強く結びついているかを調査・分析することで、和歌山県における観光資源と自然環境との関係を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

日本観光振興協会のデータベース¹⁾を用いて、和歌山県の9市20町1村それぞれに賦存・立地している観光資源の数を分類別に調べ、集計した。このデータベースでは、A：自然環境、B：文化、C：温泉、D：レジャー、E：料理、F：特産品、G：宿泊、H：モデルコースの8つの大分類ごとに、さらにいくつかの小分類が設定されている(表-1)。例えば a8, a9, f2 は供給サービス、a3, a4, d4~d7, d10, d12~d14 等は景観やレクリエーション等の文化的サービス、a1, a2, a10 は基盤サービスに関わるなど、生態系サービスの機能に関連づけられる観光資源が多く含まれている。

次に、集計した大分類および小分類ごとの市町村別観光資源数を用いて、自然環境と各種の観光資源との相関関係を分析した。さらに、市町村ごとの観光客数²⁾と観光資源数との相関を明らかにすることで、どのような観光資源が観光客を惹きつけているかを考察した。

3. 結果および考察

3.1 自然環境と観光資源の関係

自然環境 (A) とその他資源 (B~H) の基礎的な関係(表-2)を見ると、和歌山県の温泉やレジャー施設、料理、宿泊施設は、自然環境との結びつきが相対的に強いことがわかる。逆に、特産品やモデルコースは自然環境とのつながりが弱い、もしくは自然環境を観光資源として活用できていない可能性を指摘することができる。

表-1 観光資源の分類

大分類	小分類
A：自然環境	a1：山岳，a2：高原，a3：河川景観，a4：海岸景観，a5：海中公園，a6：その他特殊地形，a7：自然現象，a8：動物，a9：植物，a10：湖沼
B：文化	b1：城郭，b2：神社・仏閣，b3：庭園，b4：街並み，b5：旧街道，b6：史跡，b7：歴史的建造物，b8：近代的建造物，b9：その他名所，b10：行・祭事，b11：郷土芸能，b12：地域風俗，b13：郷土景観，b14：博物館，b15：美術館，b16：動・植物園，b17：水族館，b18：公園，b19：産業観光施設，b20：展望施設，b21：センター施設
C：温泉	
D：レジャー	d1：公的観光レクリエーション地域，d2：スポーツリゾート施設，d3：サイクリングセンター，d4：サイクリングコース，d5：ハイキングコース，d6：自然歩道・自然研究路，d7：キャンプ場，d8：ゴルフ場，d9：フィールド・アスレチック，d10：海水浴場，d11：マリーナ・ヨットハーバー，d12：観光農林業，d13：観光牧場，d14：観光漁業，d15：テーマパーク・レジャーランド
E：料理	e1：郷土料理，e2：郷土料理店
F：特産品	f1：伝統工芸技術，f2：特産物(味覚)，f3：ショッピング店
G：宿泊	g1：公的宿泊施設，g2：旅館，g3：ビジネスホテル等，g4：日本ホテル協会会員ホテル，g5：民宿，g6：ペンション等
H：モデルコース	—

表-2 観光資源（大分類）および観光客数の相関係数一覧

	観光客数	自然環境	文化	温泉	レジャー	料理	特産品	宿泊
A：自然環境	0.494							
B：文化	0.598	0.498						
C：温泉	0.779	0.514	0.374					
D：レジャー	0.546	0.525	0.425	0.570				
E：料理	0.726	0.566	0.509	0.686	0.494			
F：特産品	0.349	0.379	0.472	0.391	0.809	0.481		
G：宿泊	0.746	0.590	0.639	0.505	0.514	0.650	0.424	
H：モデルコース	0.021	-0.201	0.185	-0.026	-0.203	-0.084	-0.108	0.091

次に、各観光資源の小分類項目間で相関分析をおこなった。自然環境の小分類（a1～a10）とその他観光資源の小分類（b1～g6）との関係に着目すると、海岸景観（a4）と海水浴場（d10）の相関係数は0.631であり、比較的高い相関が見られた。この海水浴場は、宿泊（G）の小分類である公的宿泊施設（g1）、旅館（g2）との相関が確認され、相関係数はそれぞれ0.6461、0.643であった。一方、公的宿泊施設、旅館と自然環境（a1～a10）との相関はそれほど高くなかった。したがって、相関分析の結果は因果関係を表しているものではないが、和歌山の自然環境によって形成される海岸景観は、主に海水浴場という観光資源を支え、その海水浴場の近隣に観光施設・サービスとしての宿泊施設が立地・集積しているという構図を読み取ることができる。すなわち、これらの観光施設・サービスは、自然環境が生み出す生態系サービス（景観）によって間接的に支えられていると推察される。なお、同様の構図は、山岳－郷土料理－旅館の間や、山岳－行・祭事－特産品（味覚）の間にも確認することができた。

3.2 観光資源と観光客数の関係

観光客数と観光資源（大分類）の関係では、和歌山県における観光客数は温泉（C）や料理（E）、宿泊（G）の資源と強く相関していることがわかる。また、自然環境（A）との間にも0.5弱の相関が見られる。温泉や料理は自然の恵みを活かした資源であり、それらが観光客を惹きつける要素になっていると解釈できる。

観光客数と観光資源（小分類）の単相関分析の結果からは、自然環境の小分類（a1～a10）では海岸景観（a4）のみが相関係数0.5以上となった。自然環境以外の小分類（b1～g6）では、海水浴場（d10）や観光漁業（d14）など、海に関連する資源との相関が高かった。また、料理や宿泊の小分類は全体的に相関が高く、特に旅館（g2）との相関係数は0.81であった。

4. 結論

観光資源と自然環境との関係の基礎的な分析をおこなった結果、和歌山県では温泉やレジャー施設、料理、宿泊施設は、自然環境が豊かな地域に多く立地・存在していることがわかった。つまり、生態系サービスの恩恵を受けることで、観光産業が成立していると考えられる。また、山岳や河川などに比べ、海に関連した資源が観光客数に大きく関係していることも明らかになった。和歌山県は高野山山麓や九度山といった豊かな森林を有しているものの、観光客数の観点では、観光客は白浜や串本など海の生態系サービスを享受しうる地域や資源に対して、相対的に強く魅力を感じていると解釈することができる。

参考文献

- 1) 日本観光振興協会ウェブサイト「全国旅そうだん」、<<http://www.nihon-kankou.or.jp/index.php>>
- 2) 和歌山県商工観光労働部観光局：和歌山観光客動態調査報告書（平成22年）